

Nitrite and nitrosamines in gastric juice: Risk factors for gastric cancer ? : *P Schlag, R Böckler, M Peter* (Scand J Gastroenterol 17: 145~150, 1982)

シを十分に含有するので、N-ニトロソ化合物の形成は、胃内の pH、細菌などの触媒物質と亜硝酸塩の濃度によって影響を受ける。著者らは、患者の空腹時胃液の pH と亜硝酸塩濃度を測定したところ、正常者と表層性胃炎、消化性潰瘍患者では有意の差はなかったが、萎縮性胃炎では、pH、亜硝酸塩濃度共に著明に上昇し、両者が相関するのを認めた。空腹時胃液中のニトロソアミン濃度も同様に、正常、消化性潰瘍、表層性胃炎の間では有意の差はなく、萎縮性胃炎では著明に上昇し、亜硝酸塩とニトロソアミンの間に明らかな相関をみた。

によって活動性を得る硝酸塩減少細菌の胃内での集落化の結果であり、萎縮性胃炎の患者での酸分泌の低下は、それらの菌の発育に好環境となる。

この研究で、亜硝酸塩とニトロソアミンとの関連がわかった。胃液中の亜硝酸塩の濃度の上昇は、多分胃内でのニトロソアミンの増加に導く。このことは萎縮性胃炎の酸の低下した胃内でのニトロソアミンの産生増加の考え方を支持するものである。胃粘膜のN-ニトロソ化合物との継続的な接触は、萎縮性胃炎から胃癌の起こりやすいことを説明しているように思われる。

(愛知県がんセンター第1内科
小林世美 抄)